

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.28

平成11年 5月13日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

学生に招かれて

元英語学科非常勤講師 國弘 正雄



昨年10月に来日した金大中氏と会見される國弘先生

恐らくは世界史の時間に、ヨーロッパの古い大学が呱呱の声をあげた頃、大別して二つの方式があったことを習われたにちがいない。一つはパリのソルボンヌ大学、いま一つはイタリアのポロニア大学で、前者が学校側が教員を用意して生徒を募集したのに対し、後者は生徒の方が教員を集めていわば教授の場を与えた、という違いがある。

他の東アジアの国々はいざ知らず、少なくともここ日本にあっては、大多数がパリ方式で、ポロニア方式というのは絶えて聞かない。

だが皆無ではない。

小生の上智英語学科とのかかわりが始まったのは、ポロニア流だった。

当時、小生はいくつかの大学でアメリカ論を英語で

講じていた。NHK教育テレビで定期番組を持ってもいた。いくつか物も書き、その一冊は七十万を売るベストセラーにもなっていた。

そこを見込んで(?)か、今にして思えばSELDAのメンバーで現役の二三年生がふたり連絡してきて、講演をするようにとのことだった。小生は一も二もなくその要請を受け入れ、思いの丈を存分に語った。たしか異文化間伝達というテーマだったと記憶する。同時通訳についても質問が出た。アポロ11号の月着陸がらみで、当事者の一人の小生に質問が次々に浴びせられたのも、いまとなっては懐かしさの極みである。

これがきっかけで小生の上智の非常勤講師の途は開かれたのだった。要は学生諸君に備われたのである。

天下の俊英に道を説くことは最高至高の喜びと、中国の古人は言ったが、小生の上智での体験はまさにその通りだった。あの機会を恵んでくれた二人への小生の謝念は盡きない。ただ、いかなる天魔に魅入られたのか、両君とも自裁して果てたという。

こちらが老廃の身を横たえているというのにである。謹んで合掌、その魂の安息をねがい、上甲平谷翁の絶吟を憶う。

時流れ 年の瀬流れ 人流れ

★☆☆オール・ソフィアーズ・デーで会いましょう☆☆☆ ～ 1999年度 SELDAA 総会&懇親会のお知らせ～

1999年度総会を今年もオール・ソフィアーズ・デーに合わせて、5月30日(日)に開催します。

総会では、活動報告、講案の承認の他、SELDAの今後の活動について、多くの方のご意見を伺いたと思います。

総会終了後には、ささやかながら親睦パーティーを予定しております。会費は無料。是非皆様お誘い合わせの上お越しください。久しぶりの母校で、楽しいひとときを過ごしましょう。

1999年度 SELDAA 総会および懇親会

日時：1999年5月30日(日) 12:00～14:00

場所：上智大学1号館101教室(正門を入ってすぐ)

SELDAホームページ

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~seldaa/>

恩師を 偲んで

今回は特別企画として、卒業生を代表してお二人の方に、
故人となられた恩師を偲んで、先生方への思い出や最近の出来事などを
語っていただくことになりました。

〔昭和60年（1985年）ハンコック先生のお誕生日のお祝いの席にて（つどいの家）〕



「つどいの家と鰻と」

—ハンコック先生を偲んで—

小学校教員 松井 美代子 (昭和63年卒)

「松井さんは相変わらず忙しいのでしょうか。無理しないで、お体を大事にしてください。多分夏ごろに東京に戻ると思います。またおいしい鰻が食べたい。ではお元気で。」

1991年1月28日付けでハンコック先生が私に宛てて下さったお手紙の結びの文面です。またおいしい鰻が食べたい。かつて、私達つどいの家に来ていた学生にご馳走して下さいました南千住の鰻屋さんの味を、療養中のボストンから懐かしく思われたのでしょうか。

ハンコック先生には、惜しみなく時間を費やした大切なものが幾つかあったと思います。その中につどいの家がありました。つどいの家には、地域の小中学生が無料で近い金額で勉強を教わりに来ていました。その子ども達といえば、施設の子や学校での勉強に遅れがちな子が殆どでした。私達学生は、子ども達の勉強を見るお手伝いをしていましたが、教えるどころではなく勉強する態勢にもっていきただけで2時間が終わってしまったことも何度かありました。子ども達が帰った後、夕食をみんなで頂きながら子ども達のことを話し合いました。時には私達の考えの甘さに対してハンコック先生からお叱りを受けたこともありました。そうした中で、子ども達をどう育てるのか、つどいの家に関わる者として自分はどうあるべきなのか、そういったことを学ばせて頂いた気がします。つどいの家は、現在小学校の教員をしている私にとって、子どもを見つめることの意味と大切さを教えてくれる原点です。

そう言えば、ハンコック先生と鰻を食べながらつどいの家に通うよしえちゃんやカンミ、イナッチョやガモチンといった中学生の話をしたことを思い出します。ハンコック先生は鰻の味と一緒につどいの家に来ていた子ども達のことを思い出していらしたのでしょうか。私はというと、鰻を食べるたびにその時のハンコック先生の笑顔思い出すのです。

「メイスン先生を偲ぶ会」

永井 一憲 (昭和57年卒)

1月23日、メイスン先生の13回忌を記念して、演劇の指導を受けたSETS、SMPのメンバーが集まり、先生を偲び旧交を温めました(参加者46名)。

4時からクルトゥールハイムでドイル神父によるミサが行なわれ、続いて、ソフィアンズクラブにてパーティーが行なわれました。

九州から駆けつけたメンバーもいて、当時の思い出話や、近況に花を咲かせました。途中、全員で思い出の上智小劇場へと繰り出し、懐かしい匂いの空間で、メイスン先生が塗った黒壁に触れたり、ほろ酔い加減で思い出のセリフが飛び出すなど、タイムスリップしたような感覚にひたりました。

メイスン先生の愛した「ファミリー」が、一堂に会し交わりが深まったことはとても嬉しいことでした。以前一、二度集まりを持ったことがありますが、今後このような会を定期的に持つてほしいとの声もありました。

今回連絡のつかないメンバーがいたことは残念でした。メイスン先生の演劇に携わった方々の消息をお知らせ下さい。よろしくお願いいたします。

【消息連絡先】 林 建郎 (昭和45年卒)

e-mail: RXX06172@nifty.ne.jp TEL/FAX: 045-913-6170

〒225-0015 神奈川県横浜市青葉区荏田北2-11-6-B-1



「昭和56年(1981年)「コーカサスの白雲の輪」練習中、熱心に指導されるメイスン先生」

「遊ぶが勝ち！」

木村 賜代 (昭和56年卒)



学生時代、勉強ばかりしていて遊ばなかった(一部の抗議の声は無視!)反動か、独り身で気楽なせいか、ここ2年ほど遊びまくっています。毎年、年初にその年の目標を決めるのですが、'97年に「お友達倍増」という目標をかかげたおかげで、本当に友達が倍増。'98年は「今年は遊ぶ！」と年賀状に書いたらすぐに乗るので、働く時間を見つけるのが大変です。

去年1年間を考えると、オリンピック観戦に4回、パラグライダーに4回、合計10日間、遊園地1回、クロスカントリースキー1回、コンサート1回、ドライブ2、3回、登山が4回、キャンプ1回、うーん、挙げてみるとそれほど遊んでいませんねえ。でも、これに宴会が25回ほど加わるし、写真展や講演会に10回は行っているし、やはり仕事をする時間がないわけです。

でもね、皆さん、わたしはあるとき気がついたのですよ。遊ばない人間はダメだって。たくさん遊んだり冒険したりしている人の方がはるかに魅力的だって。つまり、わたしは魅力的な人間になるべく、日夜努力しているのです。

今年は今のところスキーに1回、雪遊び(雪洞掘り、スノーシューハイキングなど)に1回、八丈島に1回行っただけですが、今週末も八ヶ岳にスノーシューハイキングに行く予定。4月はお花見にコンサート、銘酒会、5月と8月と10月にはパラグライダー、7月には富士登山、年末にはヒマラヤにトレッキングに行くことが決まっています。あ、それから今年こそダイビングのライセンスを取ろうと計画中です。

ああ、まったく忙しい。お仕事でお忙しい皆さん、ごめんなさい!!!

*今年の「オールソフィアンの集い」の実行委員を努めさせていただくことになりました。

皆さん、5月30日は四谷キャンパスでお会いしましょう!(77クラス用には一部屋確保してあります。ご自由にお使いください。)

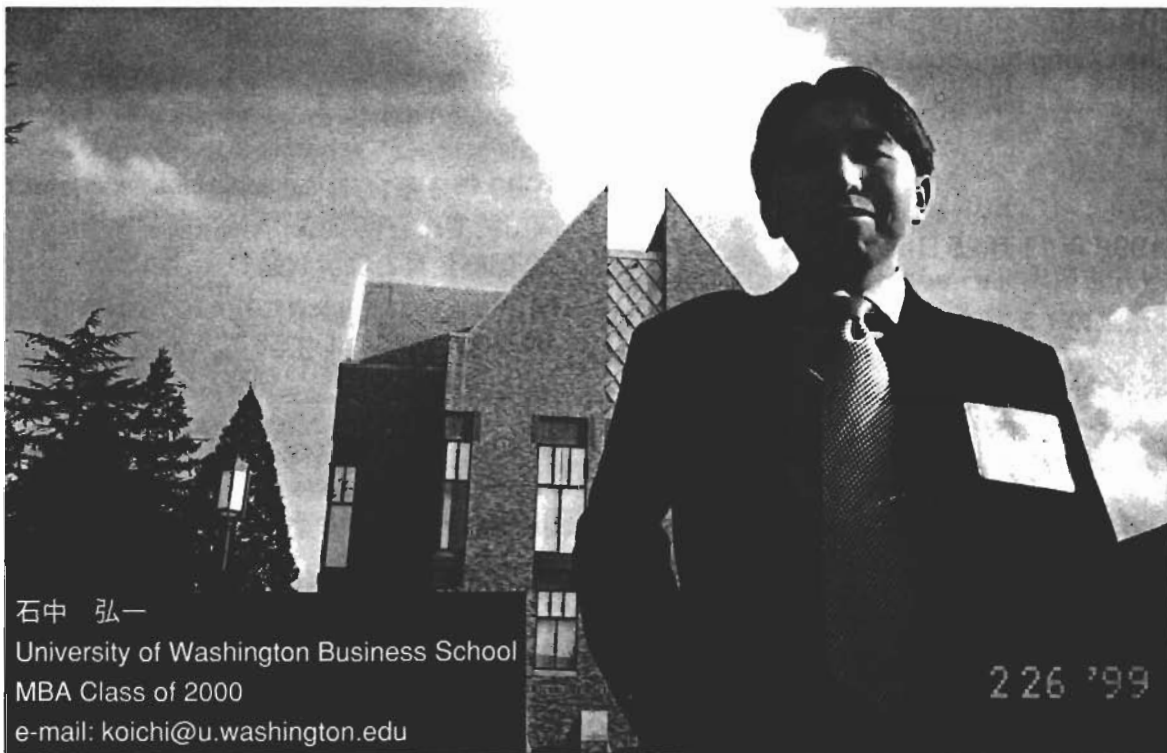
“Double tall non-fat latte, please.”

石中 弘一 (1993年(平成5年)卒)

一杯のラテを頼むことで、私の一日は始まります。シアトルは全米一コーヒーの消費量が多い街で、町中のいたる所にエスプレッソスタンドがあり、コーヒーの香りが漂っています。夏以外は雨が多いというのも関係しているのでしょう。数年前、Tom HanksとMeg Ryanの“Sleepless in Seattle”でこの町は脚光を浴びましたが、それ以降日本ではStarbucks CoffeeやEddie Bauer、そしてMicrosoftの本拠地として名をはせています。

その街にこうして再度生活するとは、英語学科時代にシアトルに留学していた時には想像もしていませんでした。上智大学を卒業後、外資系銀行に数年勤めましたが、ビジネスの知識のない事を痛感しました。学部時代には興味のある科目だけを取っていた結果、経済や経営など実社会で役立つであろう科目は取らずじまいでした。将来的にはそういったビジネスの基礎知識は不可欠であろう確信し、思い切って会社を休職し、ここUniversity of WashingtonのBusiness SchoolにMBA取得のため留学をいたしました。

Business Schoolと言っても、私の様に金融出身だけでなく、生徒の経歴は元画商から、コンピューターのプログラマーまで多種多様です。経済、財務、マーケティング、オペレーションマネジメントなど授業も多岐に渡り、クラスはディスカッションで活気に溢れています。クラスメートからは学ぼうという意志が感じられます。そんな環境に圧倒されながらも、その中で自分自身も変わって来ているのを日々実感しています。



SELDA 女性セミナー

女性セミナーでは、毎月一回学内外から講師をお招きして、それぞれご専門の分野の講演をしていただいております。今回は、女性セミナーに殆ど毎回出席くださっている昭和46年卒の皆様(熊野さん、森本さん、佐々木さん、乳井さん)にこれまでの開催講座の一言レポートをお願いしてみました。



〈女性セミナー第3回懇親会開かれる!〉

1999年1月27日(水)に茶話会がソフィアーズ・クラブで開かれました。その回の講師でいらした笠島英語学科長を囲んで、和やかな雰囲気の中、学年差の枠を超えて会話が弾みました。笠島先生へのエールもたくさん送られていました。

1998年9月30日(水)

小笠原祐子氏 (江戸川大学専任講師、昭和58年英語学科卒)

「日本企業と女性」

先進國中、日本ほど女性の地位が低い国はない、と言われている現状を自著『OLたちの<レジスタンス>』の中から、エピソードを交え具体的に語られました。

1998年10月28日(水)

Mr. David Slater (上智大学比較文化学部講師)

「The Role of the Urban High School in the Changing Social Patterns of Tokyo」

日本の教育は階級がなく同質と見られているが、実はさまざまなレベルの学校が存在し、また必要であることを、定時制高校での経験を通して語っていただきました。

1998年11月25日(水)

村井吉敬氏 (上智大学外国語学部アジア文化研究室教授)

「激動のインドネシア」

オランダによる植民地時代からスハルト政権崩壊までのインドネシアの歴史や、そのスハルト政権と深く結びついていた日本のODAによる経済的援助の実態を語っていただきました。

1998年12月9日(水)

鮎川ゆりか氏 (世界自然保護基金(WWF)気候変動担当、昭和46年英語学科卒)

「地球規模環境問題—温暖化の話」

地球温暖化防止京都会議やブエノスアイレス第4回締約国会議への参加で得た貴重な知識や体験をもとに講演していただきました。

1999年1月27日(水)

笠島準一氏 (上智大学外国語学部英語学科長、昭和48年英語学科卒)

「英語学科と英語教育」

私たちの卒業した英語学科は今、どのようなカリキュラムで教育が行なわれているかについて、英語学科長の笠島先生からお話していただきました。活発な質疑応答も行なわれました。笠島先生って、意外に(?)ユーモラスな方なんです。

1999年2月24日(水)

Fr. Garralda (上智大学文学部人間学研究室教授)

「真実の対話」

わかりやすいエピソードや作家の言葉を通して、人の心に橋をかける対話の在り方を語られました。正義は正しさと共に心の暖かさも含まれるはずという言葉に深く考えさせられました。

1999年3月10日(水)

岡田仁孝氏 (上智大学比較文化学部教授)

「多国籍企業と環境問題」

皆さんは世界の二酸化炭素(CO₂)問題の50%が多国籍企業(MNCS)に関連したものであることをご存知でしょうか。多国籍企業と環境破壊の問題について語られました。

1999年4月28日(水)

丹野真氏 (上智大学外国語学部英語学科教授、昭和45年英語学科卒)

「マザー・テレサとその世界」

(今後の予定) 10:30~12:00 於: ソフィアーズ・クラブ

1999年5月26日(水)

江畑謙介氏 (軍事評論家、昭和48年上智大学理工学部機械工学科卒)

「21世紀の安全保障—「周辺事態」だけでない安全保障の考え方—」

■女性セミナーよりお知らせ■

4月より女性セミナーはソフィアンズクラブで開かれます。従来のかつらぎ館からもう少し足を先に伸ばしてください。4月より平成11年度が始まりますので、年会費をお納めください。

3,000円/年、500円/1回のみ、英語学科以外は5,000円/年

■女性セミナーよりちょっと一言■

SELDAA女性セミナーは、女性のためだけのものではありません。知的興味をお持ちの卒業生の方なら、老若男女を問いません。男性の方も大歓迎です！

P.S. SELDAA女性セミナーという名称が誤解を招くという声もあり、名称についてはただ今検討中です。

【連絡先】 世話人：日岡久美子(49年卒) 03-3775-8988 渡辺まかや(49年卒) 045-361-4221
会 計：三好比呂子(49年卒) 03-3348-0285

卒業生短信

今回はちょっと件数が少なく7件でした。皆様からの応募をお待ちしております。(本文中は敬称略とさせていただきます)

◆70-50, 51, 52の皆様へ

卒業してから早25年！ 今年是我たちの銀祝の年に当たります。5月30日(日)のオールソフィアンズデーに式典とパーティーが開かれますので、今からスケジュール表に書き込んでおきましょう。懐かしい友達や先生方に再会できるまたとないチャンスです。昭和49年卒業の方々には後ほど招待状がお手元に届くことと思いますが、それでもすっかりお忘れの方も多はず。お友達同士声をかけ合って、当日は会場に集合しましょう。

岩村 玲子(旧姓内田)(昭和49年卒)

◆昭和59(1984)年卒業の皆さんへ

今年が私たちにとって卒業15周年の銅祝だということをお知らせでしたか。多忙な日々の中で歳月がたつのを忘れていたのは、私と私が勤める大学の同僚である杉木良明君ばかりではなからうと思います。15年と言えば私が専門にしているアメリカ演劇、映画でも、一つのパラダイム・シフトが起こるのに十分な時間です。このかけがえない15年間の軌跡を辿るのにまたとない機会として、5月30日(日)のオールソフィアンの集いで、学生時代にタイム・スリップしてみたいかがでしょうか。

増田 光(昭和59年卒)

◆SELDAA宣伝のため、3月24日英語学科卒業証書(「学位記」と呼ぶそうです)授与会場に行ってきました。私達が卒業した時にはまだ生まれていなかった子達で、ピカピカ光っていました。女の子は袴姿が多かったですヨ。「感慨」というか、この方たちがこれから歩むであろう様々の道、また、私達同級生がそれぞれ歩んで来た道に想いを馳せて、胸がいっぱいになりました。

「お～い! みんな元気かい?」都合のつく方、5月30日のSELDAA総会&懇親会でまた会って、どこかへおしゃべりしに行きませんか? 笠島学科長、蔵田会長(2人ともがんばっています、応援してください)と一緒に待っています。

池沢 なるみ(昭和48年卒)

◆1998年1月に独立、商業デザイン及び印刷(日本一安い)を始めました。

ユニークなデザイン(例えば、年賀ハガキや名刺 etc.)をお望みの方、御一報を。また、1枚からOKのフルカラー拡大プリントも行っています。原稿サイズA4までなら一気にA0サイズまで拡大できます。写真屋さんの半額以下の料金で。

オフィスセブン シーズ

〒324-0047 栃木県大田原市美原3-3338-8

TEL・FAX 0287-22-7565

神中 拓治(昭和49年卒)

◆2年前より、大阪に「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の2001年開業の準備のため引越しました。時々、上智大英語学科の卒業生にお会いすることがありますが、関西方面の集まりがあればお知らせください。あと数年は関西方面に在住予定です。松下電器の榎葉健一君(奥様も英語学科卒)とは時々食事をしたりしています。住まいは阪急神戸線の夙川です。

(会社) 06-6615-6234 (自宅) 0798-70-3100

山本 洋司(昭和49年卒)

◆昨年の5月31日、卒業以来初めてオールソフィアンの集いに参加させていただきました。主人と3歳になる長男と母校の門をくぐることができ、ささやかな幸福を感じました。旧知の仲間とも久しぶりに会え、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

7月には勤続13年の会社を退職し、現在は専業主婦稼業ですが、次なる目標を胸に、また新たな気持ちで頑張りたいと思います。

鈴木 由美子(旧姓岡村)(昭和60年卒)

◆昨年、英語学科で同期の塩沢氏が編集長を務める『SFマガジン』に発表したドラキュラ論が、この度、古今東西の吸血鬼文学・評論を集めたアンソロジー『書物の王国第12巻：吸血鬼』(国書刊行会)に収められました。御笑覧ください。

下楠 昌哉(平成3年卒)

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。皆様のご協力をお願い申し上げます。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付

事務局長 大日方聖信(おびなた まさのぶ)

TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910

E-mail:seldaa@mve.biglobe.ne.jp

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

◆SELDAA 常任委員 (平成11年4月現在)◆

■名誉会長/笠島 準一 (昭和48年卒)

■女性セミナー/安西 徳子 (昭和49年卒)

■会長/蔵田 實(昭和48年卒)

■常任委員/石川 雅弥 (昭和40年卒) 斎藤 敬子 (昭和48年卒)

■副会長・事務局長/大日方聖信 (昭和62年卒)

相馬 晶夫 (昭和54年卒) 岡村 リサ (昭和56年卒)

■副会長/池沢なるみ(昭和48年卒)

増田 光 (昭和59年卒) 栗村 真 (平成4年卒)

■会計/内藤恭子(昭和55年卒)

寺北ゆかり(昭和61年卒)

■会報/佐藤誠一郎 (昭和53年卒)

■監査/井坂由美子 (昭和47年卒) 岩村 礼子 (昭和49年卒)

《編集後記》

●英語学科同窓会が設立されてすでに15年が経過しました。会員の皆様に支えられて、ここまで育ちました。21世紀も間近にせまり更なる発展のため、皆様のご協力を今後ともよろしく願います。(M.O)